

麻酔科

Department of Anesthesia

麻酔科長
福田 和彦



手術中の安全と安心、 痛み疾患の治療

麻酔科では、手術部、デイ・サージャリー診療部(DSU)における手術の麻酔管理を行っている。硬膜外ブロック、神経ブロックや患者自己調節鎮痛法(PCA)を用い、術後鎮痛を行っている。DSUでは、修正型電気痙攣療法の麻酔管理や中心静脈カテーテル、硬膜外カテーテルの留置を行っている。また、ペインクリニックでは、一般的な鎮痛薬で緩和が得られない疼痛に対し、神経ブロック(局所麻酔薬、神経破壊薬、高周波熱凝固によるもの)、理学療法(近赤外線照射療法、低周波刺激療法)、薬物療法(イオントフォレーシスによる経皮的投与方法を含む)を組み合わせることにより、緩和を図っている。

代表的診療対象疾患

帯状疱疹の急性期痛、帯状疱疹後神経痛、がん性疼痛、三叉神経痛、非定型顔面痛、複合性局所疼痛症候群(RSD、カウザルギー)、末梢神経障害性疼痛、脳卒中後疼痛、脊髄障害性疼痛、幻肢痛、片頭痛、群発頭痛、緊張性頭痛、後頭神経痛、アレルギー性鼻炎、舌咽神経痛、肋間神経痛、慢性肺炎、会陰部痛、頸椎椎間板ヘルニア、頸椎症性神経根症、頸椎症性脊髄症、頸椎椎間関節症、胸腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症、変形性腰椎症、仙腸関節症、外傷性頸部症候群、頸肩腕症候群、坐骨神経痛、閉塞性動脈硬化症、難治性皮膚潰瘍、手術後疼痛症候群、線維筋痛症

診療体制と治療実績

外来診療体制と実績

外来診療棟4階の南東にある処置室と一体となったエリアで、月曜日・水曜日・金曜日の週3日、4名のスタッフが交代で診療を行っている(各曜日を3~4名で担当)。診療は、原則として予約制である。当ペインクリニックでは、星状神経節ブロック、硬膜外ブロック、神経根ブロック、三叉神経ブロック、トリガーポイント注射、腕神経叢ブロック、肋間神経ブロック、肩甲上神経ブロックなどのさまざまな神経ブロックをX線透視下あるいはエコーガイド下に施行している。

手術部で麻酔科管理の手術を予定している外来患者に対する麻酔科へのコンサルトも当外来で対応している。2012年の初診患者数は253人、1日あたりの外来患者数は約50~70人である。

入院診療体制と実績

X線透視を必要とする神経ブロックは、放射線部の清潔透視室で月曜

日、金曜日の午後に予約制で施行している。X線透視下の神経ブロックについては、腰部交感神経節ブロック、上下腹神経叢ブロックなど神経破壊薬を用いる場合は入院としている。局所麻酔薬を用いる場合も入院のうえ、経過観察を行うこともある。南病棟3階(脳神経外科・麻酔科)に1床のペインクリニック患者用の入院ベッドを有する。



高度先進医療の取り組み

多様な研究を展開

①肝移植の麻酔

重症肝疾患に対する生体部分肝移植、脳死肝移植の麻酔管理。

②肺移植の麻酔

重症肺疾患に対する生体肺移植、脳死肺移植の麻酔管理。

③体腔鏡下手術の麻酔

胸部、腹部などの疾患に対し体に負担が少ない手術法の麻酔管理。

④覚醒下開頭手術の麻酔

脳機能を温存させるために意識のある状態での頭蓋内手術の麻酔管理。